

一流の技術者集団が集まった 日本語文書の独自の検索技術 をもつプログラム制作会社

インタビュー

株式会社インターソフト



<https://intersoft.co.jp/>

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-4-16 石井ビル3階

・事業内容：Windowsアプリケーション開発・OEMパッケージ開発／WEBシステム開発／スマートフォン・タブレット アプリ開発

・資本金：1,000万円

・設立：1997年9月

株式会社インターソフトのなりたち

株式会社インターソフトは、1997年に現在の代表取締役社長である笹原 和弘氏（以下、笹原氏）が有限会社インターソフトとして設立したのがきっかけです。2002年に現在の株式会社インターソフトに名称を変更しましたが、事業内容は大きく変わらずソフトウェアのプログラム受託開発から自社サービスの企画・開発を行う制作会社として成長を続けています。

創業当時は、日本語文書における書類の検索を個人的に研究していた経緯もあり、出版社や印刷会社向けに文書検索の要望に応えるソフトウェア開発を行っていました。当時は現在ほどインターネットが普及しておらず、もちろんGoogle検索も存在しない時代の中、独自の検索エンジンを研究開発していました。いまではインターネットを使う上で無くてはならない検索エンジンですが、創業当初からその有用性に目を向けていたのです。

時代が進む中でGoogle検索エンジンををはじめ多くの検索エンジンが世の中に普及していききましたが、インターソフトはこれまで培った検索エンジンの開発とノウハウを活かし、今ではそれらを活用した業務アプリケーションも手掛けています。

なお、インターソフトでは企業理念の一環として、人々に役立つ「モノづくり」に焦点を当てています。特に社長である笹原氏は「モノづくり」に対して強い情熱を持っており、会社の理念に基づいて「モノづくり」による地域社会の貢献を行ってきました。

その具体例の一つがデジタル化の推進です。インターソフトの本社がある吉祥寺は小売業を営む個人経営の会社や中小企

業が多い地域であり、これらの企業の多くが大量の文書を保存する必要があるにもかかわらず、適切な保管場所が不足しているという課題がありました。さらに、笹原氏が地域の人たちとデジタル化について話をしても、どこから始めればよいかわからないなど、ITリテラシーの知識が不足している人々もいました。こうした状況を踏まえてインターソフトでは、ITに慣れていない人でも使いやすいツールを提供し、デジタル化による課題解決を支援することで地域社会に貢献してきた実績があります。

自社開発への挑戦

インターソフトでは自社開発商品として「ファイレンジャー[®]」や「QR入退管理」、「Marumoni[®]」などの開発も手掛けています。とくに「ファイレンジャー[®]」は、電子帳簿保存法に対応したクラウド型文書管理システムとしてリリースされています。利用者のユーザビリティを重視していることはもちろん、シンプルで使いやすいデザインを特長としており、これまでの経験とインターソフトらしい「モノづくり」の理念が反映されています。

この「ファイレンジャー[®]」はクラウドサービスでありながら、柔軟な個別対応が可能となっています。要望によってはオンプレミス対応や個別カスタマイズなど、お客様に寄り添ったプログラム開発を手掛けてきた会社だからこそできる対応であり、今後も「ファイレンジャー[®]」はバージョンアップを続け、これまでのノウハウをさらに進化したサービスに発展させていく予定です。

なお「ファイレンジャー[®]」の自社開発は、インターソフトの事



「ファイレンジャー[®]」ではどんな形式のファイルでも簡単に登録ができ、さまざまな項目から検索ができる

業として一つの大きな決断でもありました。当時はコロナ禍によってテレワークが推進され、社内文書や契約書などのさまざまな書類を電子保管できるクラウドストレージの重要性が高まっている時期でした。そこでインターソフトでは、受託開発が中心だった事業形態から自社製品の制作を事業分野として設定し、新たな文書管理システムの開発に着手したのです。

内部コストや開発リソースがかかる中、リーダーを中心に社員が協力しあい、企画から機能設計、製品開発、商品化を目指した結果「ファイレンジャー[®]」が誕生しました。これまでの受託開発であればある程度の要件が定められた中での開発となるため、開発フェーズについては特に大きな問題はありませんでした

が、自社製品となると企画や要件設計をすべて自分たちで行うことになり、この要件取りまとめの部分が大変だったと笹原氏は開発当時の思い出を語っています。

ちなみに「ファイレンジャー[®]」以外の自社製品である「QR入退管理」や「Marumoni[®]」も利用者の皆様に高い評価を受けています。こちらの製品は、取引先様との会話の中でヒントをえて、さらにインターソフトならではの独自性を盛り込みながら今の製品になった経緯があります。とくに「QR入退管理」はシンプルな使い方で学習塾にも多く採用されており、またリリース当初は想定していなかった業態からも利用していただいたことで、製品化における新たな発見も多くありました。

学習塾・習い事に最適な 入退室管理システム

**費用が安く、シンプルな機能で使いやすいので、
どんな方でも手軽に始められます！**

	初期費用	月額費用 ^(※)	月額最低 利用料	機能の 多さ	操作の しやすさ	アプリ インストール
QR入退管理	0円	38円/人	1,980円-	○	◎	不要
A社	0円	50円/人	3,000円-	◎	△	必須
B社	5,000円	50円/人	—	○	○	必須

(※各社価格は全て税別です) (※月額費用：生徒人数が100人の場合を想定)

point 1 **簡単＆シンプルな操作で誰でも直ぐに使えます**

QR入退管理は、操作が簡単なことで誰でも直感的に使うことができます。必要な機能だけに厳選しているため、他の入退室管理システムと比べてもシンプルで分かりやすい構成になっています。

point 2 **初期費用ゼロ！月々1,980円から利用可能です**

PCやスマホのブラウザ画面でQRコードを読み取るので、QRコードリーダーなどの専用機器は一切必要ありません。また、月々1,980円(税)という少額で始められるのも嬉しいポイントです。(※最大生徒数30人プランの場合)

point 3 **PCでもスマホでも！お手持ちの端末で始められます**

「QRコード読み取り画面」も、生徒情報などを登録する「管理画面」も、どちらもレスポンスに対応。PCでもスマホでもタブレットでも、お手持ちの端末をお使いいただけます。

ご利用の流れ

- QRコードを印刷する
- QRコードをかざす
- 自動でメール送信完了！

管理画面で生徒を登録し、QRコードを印刷します

QRコードをかざすと、入退室の時間が記録されます

保護者の方へ自動でメールが返信されます

管理画面で生徒の情報を登録するとQRコードが作成されます。印刷し、入退室として生徒様にお渡しします。

スクールや教室の入口に置いてあるQRコード読み取り画面に、印刷したQRコードをかざします。管理画面に時刻が記録されます。

保護者の方へメールが返信されます。入退室メールの文面は管理画面から自由にカスタマイズできます。

こんなことでお悩みの方へ

生徒の入退室を簡単に記録したい

生徒の入退室を保護者の方へ自動で連絡したい

できるだけ初期費用はかけたくない

入退室メッセージでモチベーションアップ！

QRコードをかざすと入退室メッセージが表示されます。文面は管理画面から自由にカスタマイズできます。

入退室記録の一覧をExcel形式で出力できます

入退室の記録は、ボタンひとつで簡単にExcel形式で出力することができます。

保護者の方だけにメールを送信できます

一斉メール機能が多いため、親の連絡などに便利にお使いいただけます。送る相手はクラス単位で選べます。

学習塾・習い事に最適な入退室管理システム「QR入退管理」

営業職のいない技術集団

インターソフトには営業職がいません。その理由は、これまで高い技術力とお客様との密なコミュニケーションによる開発業務の進行によって強力な信頼関係を築き、定期的に仕事を受注しているからです。営業による駆け引きよりも技術力で真っ向勝負という思いがあり、高い技術力に自信があるからこそできる営業手段でもあります。営業職を作ろうかという議論も出ましたが、社員全員で話し合っ営業職は作らないということを決めた結果、会社としての方向性がブレることなく、社内全体で認識を共有し同じ方向を見続けることにつながりました。そのため、笹原氏を中心に開発チームとしての結束力があり、また非常に風通しのよい会社になっています。

なお、インターソフトは名前を聞けばすぐにわかる大手企業様のシステム開発プロジェクトも数多く手掛けおり、インターソフトの社名こそ出ないものの、裏方として開発に関与していることが数多くあります。それはインターソフトの高い技術力が評価されているからでもあり、縁の下の力持ちとして重要な役割を果たしています。

文書管理/情報管理の将来性

文書管理という点でいうと、セキュアな高度マネジメントと誰でも気軽に使える情報マネジメントの2つがポイントとなります。現在、これまで当たり前のように存在していた紙という媒体の利用は減少しつつあり、デジタル情報に変わってきています。ただ、デジタル情報といってもその価値はさまざまで、それぞれのデータをどのように管理するのが適切であるかはまだ手探りな部分もあります。確実に進むデジタル文書や情報の管理を、その価値に合った管理方法をお客様とも考えていながら開発していかなければなりません。

デジタル化していく文書や情報を管理するためのソフトも多く出ていますが、最終的には多くが淘汰され、限られたソフトウェアによる標準化が進んでいく可能性もあります。インターソフトとしても、そのようなデジタル化の波に押し流されてしまわないよう、日々研鑽を重ねています。



「モノづくり」で地域社会に貢献したいと語る笹原 和弘氏（写真右）
金崎 亜衣子氏（写真左）、飯塚 隆雄氏（写真中央）

JIIMA会員へのきっかけと今後の展望

JIIMAの会員企業になったきっかけは、自社製品である「ファイレンジャー[®]」が電子帳簿保存法の対象製品であることをどのように普及しようかということを考えている際に、JIIMA認証という制度を知り、会員になったという経緯があります。今ではJIIMAの事業に興味を持っており、一部の社員はJIIMAが行っている文書情報管理士の資格の勉強をしています。

今後の展望として、文書情報管理士の資格者を増やすこと、そして創業当初からの日本語文書の検索技術について改めて力を入れていき、それらの受託開発はもちろん「ファイレンジャー[®]」を中小企業から大企業まで幅広く提供していくことです。特にデジタル化の影響が顕著な出版業界においてインターソフトは取引が多いこともあり、紙文化の良さを残しつつ、デジタル化に向けての貢献ができればと思っています。

デジタルドキュメント 2023 ウェビナー

デジタル新時代到来!
DXを成功させるための情報マネジメント
～ 電帳法対応をきっかけにした「業務のデジタル化」による生産性向上 ～

2023年11/14(水) 18:30-20:30

詳しくはこちら

デジタルドキュメント2023ウェビナー 来場登録 受付中

詳細はJIIMA HPIにて
<https://www.jiima.or.jp/>